

(学校用)

様式 A-1

平成29年1月24日

サイエンス・ダイアログ 実施報告書

1. 学校名・担当者氏名: 岐阜県立恵那高等学校 佐々木俊哉(理), 山本雅人(英), 高橋亜由子(英)

2. 講師氏名: Balazs BRADAK 博士

3. 同行者氏名: なし

4. 実施日時: 平成29年1月17日 (火) 13:45 ~ 15:25

5. 参加生徒: 2年生 42人、 1年生 1人、 0年生 1人 (合計 44人)

備考: (例:理数科の生徒) 理数科の生徒

6. 講演題目: (英文) Paleoenvironment reconstruction: the link between planetology, geoarchaeology and paleomagnetism

(和文)

7. 講演概要:

化石や地層, 地形などの古い地質に関わる調査から得た断片的なデータをつなぎ合わせることで, 古い時代の環境の詳細を検証できること, その難しさと面白さについてご講義いただいた。

先生ご自身が研究者となったバックグラウンドや研究・調査の実際についても詳しく紹介いただき, 研究者を目指す生徒にとって刺激になるご講義であった。

8. 使用言語: 英語

9. 講演形式:

(1) 講演時間 40 分 質疑応答時間 10 分

(2) 講演方法 (例: プロジェクター使用による講演、実験・実習の有無など)

プロジェクターによる講演

(3) 通訳 (例: 同行者によるサポート、外国人研究者本人による日本語説明)

外国人研究者本人による日本語解説(必要最小限でした)

(4) 事前学習時使用教材(事前学習を行った場合のみ)

研究者本人によるアブストラクトを資料化したものを配布

10. 学校からの支給経費(該当がある場合): 交通費 宿泊費 謝金

11. その他特筆すべき事項:

・講演後, 講師の先生に対し, 本校生徒による課題研究の英語プレゼンテーションを実施。

8グループ, 各3分。先生から質問いただき, 英語, 日本語を交えて質疑応答を行いました。